

コレクション展示 風景は語る Ⅰ－大地の声－ 作品リスト

2026(令和8)年4月18日(土)～5月24日(日)

No.	作品名	作者名	制作年	材質	形状・員数	出品	所蔵
1	さんきょうおうん 山峡横雲	たんあみいわきち 丹阿彌岩吉	昭和48年(1973)	紙・膠彩	屏風2曲1隻	第31回丹阿彌岩吉個展	本館蔵(作者寄贈)
2	ごう 郷	なかむらすすむ 仲村進	昭和42年(1967)	麻紙・膠彩	額装1面	第10回新日展	本館蔵(仲村良一氏寄贈)
3	きょうしゅう 郷愁	なかむらすすむ 仲村進	平成3年(1991)	麻紙・膠彩	額装1面	第23回改組日展	個人蔵(本館寄託)
4	ばんしゅうさんが 晩秋山河	なかむらすすむ 仲村進	平成6年(1994)	麻紙・膠彩	額装1面	個展「故里山河」	本館蔵(仲村良一氏寄贈)
5	らくじつとき 落日の刻	なかむらすすむ 仲村進	平成11年(1999)	シナベニア・膠彩	額装1面	個展「大地・牛哀歌」	本館蔵(仲村良一氏寄贈)
6	ちい 地 維	たきざわともゆき 滝沢具幸	昭和61年(1986)	麻紙・膠彩	額装1面	グループ展 第2回地の会	本館蔵(綿半野原コレクション)
7	カオス	たきざわともゆき 滝沢具幸	平成19年(2007)	麻紙・膠彩	額装1面	第34回創画会	本館蔵(作者)
8	やしまこうげん 八島高原	たなだたいせい 棚田泰生	昭和35年(1960)	紙・膠彩	屏風2曲1隻	第3回新日展	本館蔵

鑑賞の視点 仲村進と満蒙開拓青少年義勇軍

昭和11年(1936)、満州農業移民百万戸移住計画が国策として進められました。農村では、世界恐慌以降に経済不況が深刻化し、多くの少年たちが農地を求めて開拓団に志願しました。昭和18年、農家の三男であった仲村進は、国民学校高等科卒業時に開拓団に志願し、14歳で満洲に渡りました。

開拓地は、厳冬期には零下数十度にもなる極寒の地でしたが、仲村等は牛馬とともに農地を開き、三年目には手つかずの自然に抱かれ、帰郷の念も湧かなくなったといいます。ところが、昭和20年8月の終戦によりソ連が開拓地に進駐し、牛馬を持ち去られて敗走を余儀なくされ、多くの仲間を失いながら昭和21年6月ようやく飯田に帰郷しました。

仲村の絵画には、この経験が色濃く反映されます。それは反戦や禍根といった感情だけでなく、農村の生活そのものが戦後大きく変化し、農業や人間の将来そのものを憂うものでもあります。

